

愛・地球博記念公園

公園マネジメント会議の

# あゆみ

The history of the  
Park-management  
conference in  
**Moricoro** Park



初版 令和3年6月25日  
第2版 令和5年3月14日

# はじめに

～市民協働の先駆的取り組み 愛・地球博記念公園「公園マネジメント会議」とは～

コーディネーター 三矢勝司

2007年に、愛・地球博記念公園「公園マネジメント会議」(以下、公園マネジメント会議)の準備会が発足しました。これは、2004年に開催された「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」で市民協働、パークマネジメントの重要性が指摘されたことが発端です。準備会には、愛・地球博の「地球市民村」を支えた実力・実績のあるNPOらが参画しており、あるべき市民協働、パークマネジメントについて熱い議論が展開され、公園マネジメント会議のルールブックとして結実しました。

こうしてみると、日本国内において「市民と行政の協働」といった考え方が広がり出したのは特定非営利活動促進法(NPO法、1998年)が制定されたことが一つの転換点でしたが、愛知県においては、愛・地球博(2005年)が、こうした考え方が広がっていく上で大きな役割を果たしたといえます。

公園マネジメント会議は、公園という公共財産のマネジメントを、行政だけに任せてしまうのではなく、志のある市民(NPO等の市民団体、企業、大学等)が集い、行政のパートナーとして参画する(「新しい公共」を実践する)ためのプラットフォームです。

公園利用者の目線から「愛・地球博記念公園が、もっと、こうだったらいいな!」と思うことを語り合い、実践するべく、各種の取り組みを進めてきました(NPOと大学の協働による環境調査、拠点施設・地球市民交流センターの計画検討、東日本大震災支援など)。

2015年に、愛・地球博記念公園が「第32回全国都市緑化あいちフェア」の会場となることになった際にも、公園マネジメント会議は会員の総力を挙げてフェアの成功に尽力してきました(地球市民交流センターの一角に「あいちフェア市民村」を常設運営)。

2016年からは、公園内の未利用地を対象として活用方法を考える「チャレンジスペース」という取り組みを進め、プール前大屋根空間の試験的実施をした後、運営のルールをつくる、といった実績も上げてきました。

2018年には、イベント企画運営実行委員会の立ち上げにも挑戦しました。公園マネジメント会議発足当時は愛知万博の剰余金によるイベント支援費用があったものの、その後、それがなくなりました。そこで、資金調達や人員調達を含めてイベントを企画運営する必要が浮上したため、新しい仕組みの開発に着手しました。

このように、公園マネジメント会議は準備会時代から14年が経ちました。その過程では、様々な挑戦や挫折、成功や失敗を繰り返してきました。この冊子は、その足跡を伝え、これからの公園マネジメント会議の展望のヒントとするために作られたものです。

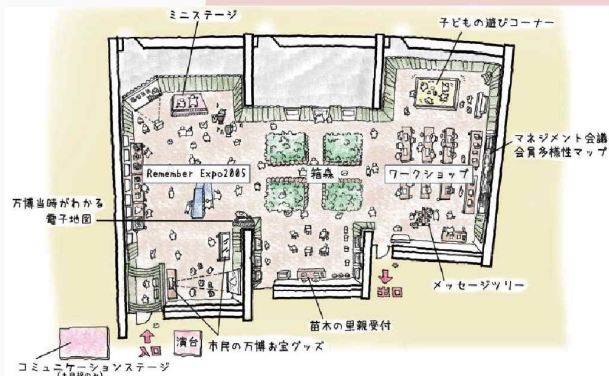


「あいちフェア市民村」  
全国都市緑化あいちフェア(2015年)



「地球市民村」  
愛・地球博(2005年)

ユニホーム



# 公園マネジメント会議のしくみ



【コア会議の状況】

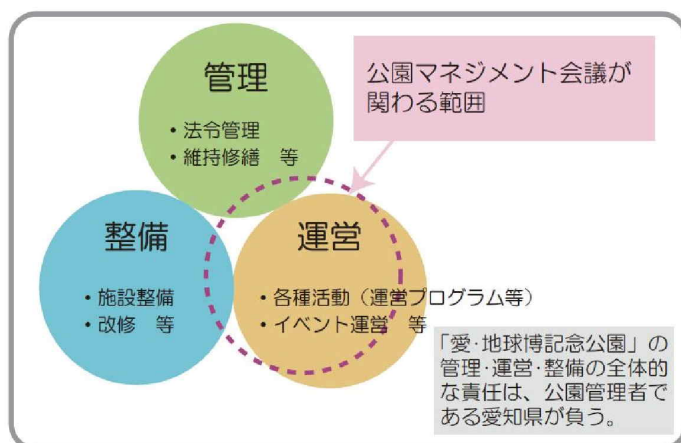
本会議を構成する会員は、NPO等市民団体、企業、大学・研究機関等、行政（公園管理者である愛知県、指定管理者、地元自治体）です。会員数は、現在78です。

全会員による「総会」を年1,2回、選出された約30の会員による「コア会議」を年4回開催して、協議・承認を行っています。

会員は、園内活動の実行組織「分科会」を総会の承認を得てつくることができ、現在は7つの分科会があります。

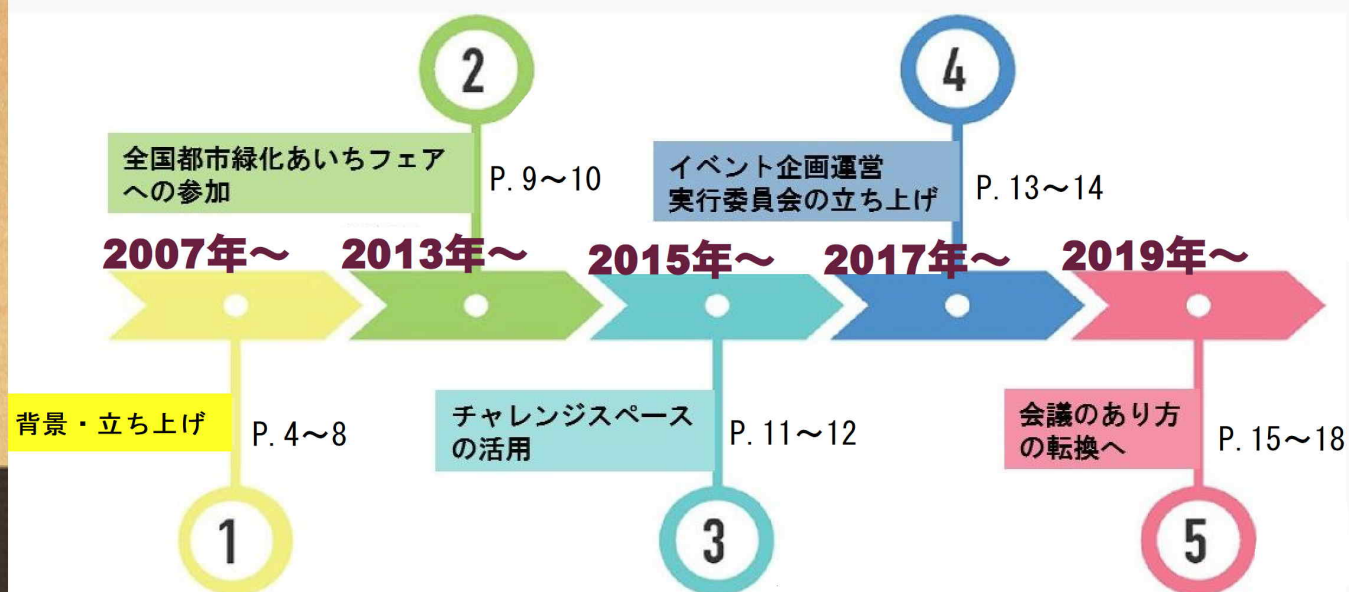
## 【役員】

会長	水津功（愛知県立芸術大学）
副会長	篠田陽作（ネイチャークラブ東海） 早川十八（NPO 法人スポーツサポート協会）
コーディネーター	三矢勝司（NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた）
アドバイザー	柴田麻美



本会議は、「運営」に関わることを主な役割範囲として活動していきます。また、「管理」や「整備」に関わる範囲は、愛知県（公園管理者）及び指定管理者が主たる役割を担いますが、本会議は、その討議の結果を提言することができます。

# 目次



# 1

## 公園マネジメント会議 立ち上げの背景

愛・地球博記念公園開園に向け、会議や住民のアンケートを行い、21世紀に向けた新しい公園のあり方を考えました。

### 21世紀にふさわしい公園を考える懇話会の開催

2001年に本公園の前身である「愛知青少年公園」が閉園し、2005年に日本国際博覧会「愛・地球博」が開かれました。開園直前の2004年から「愛・地球博」開園後の公園の在り方を考える懇話会として、「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」が開催され、6つのメインテーマがまとめられました。

- 市民協働を実践できる公園
- 幅広い世代交流の場
- プレイリーダー・インタープリターの養成、防災教育の場
- 環境先進県・愛知にふさわしい公園
- 地域資源を生かしながらリラックスし癒される公園
- パークマネジメント、公園経営に重心を置く

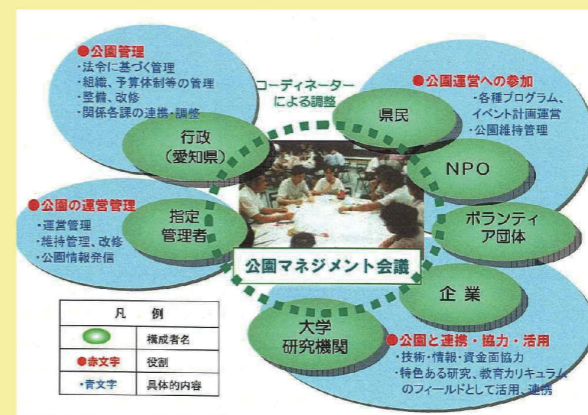
### 基本計画の策定に向けて

懇話会や公園づくりのアンケートを経て、2004年に「第1回21世紀にふさわしい公園づくり委員会」が開催されました。本公園基本計画の策定に向けて、全6回が2007年まで行われました。

### 公園マネジメント会議の位置づけ

基本計画の中で、新しい公園の整備・活用の目標は「健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民とともに成長し続ける21世紀型の公園～サステイナブル・パーク～」を目指すことでした。それを実現するため、「県民の参加・協働により、みんなで公園を育てる」必要があり、それを実行するプラットフォームとして公園マネジメント会議が明記されました。

### Topics



愛・地球博記念公園基本計画より

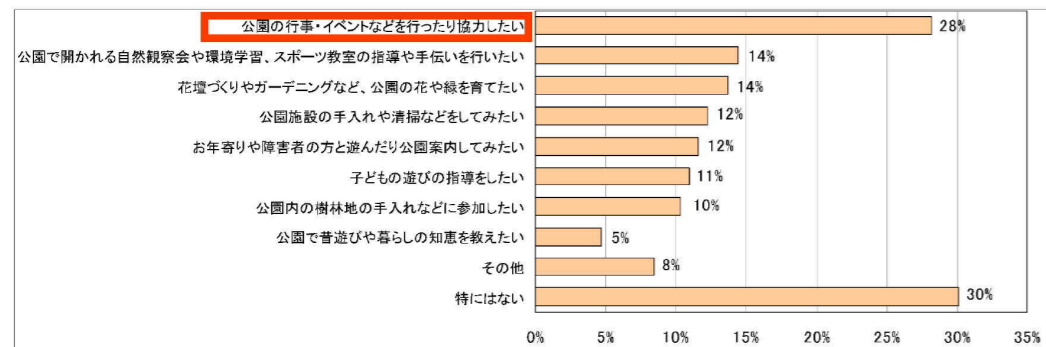
県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営について公園マネジメント会議の具体的な構成者や役割が決まりました。

### 県民意見聴取（アンケート調査）

回答者数：1532人、調査期間：平成16年6月14日～7月13日

#### ■管理・運営への参加（該当するもの全て選択可）

・行事・イベントへの協力への参加希望が多い



### 愛・地球博開催

博覧会には多くの国々や国際機関の他に、市民・NGO/NPO・ボランティアなどが参画しました。

#### 地球市民村



愛・地球博記念公 基本計画より



### 愛知青少年公園の閉園

青少年公園は「愛・地球博」の主会場となるため平成14年3月に閉園しました。



2004

2005

2006

2007

「愛知青少年公園」の閉園

平成16年度  
21世紀にふさわしい公園を  
考える懇話会

平成17年度3月25日～9月25日  
愛・地球博開催

平成18年1月  
公園名決定

平成18年2月  
愛・地球博記念公園  
基本計画（仮）公表

平成19年度  
愛・地球博記念公園  
基本計画公表

# 1 会議の立ち上げ

## 市民の盛り上がり

愛・地球博開催期間に市民活動をした人々や、万博に想いがある人が、公園周辺にはたくさんいました。

例えば、現在は公園マネジメント会議アドバイザーである柴田麻美さんは、ボランティア活動で万博の跡地である公園には何が欲しいか、子どもからお年寄りまでアンケートをとり、その結果を愛知県に届けました。また、愛知県と市民が公園について対等に話し合う場の必要性を伝えました。



撮影日：令和3年2月

会議の目的や意義が示されたルールブックの策定や分科会の設置のほか、会員間の情報共有の重要性など、現在まで続く会議の基本的な考え方が議論されました。会議の方針や取り扱う議題を会員自身が意見交換して会議を進めています。

## 公園マネジメント会議の発足

平成21年第1回全体会

「愛・地球博」の成果である「市民参加・市民協働」を継承・発展させるため、県民と行政のパートナーシップによる公園の管理運営に取り組むための組織「公園マネジメント会議」が発足しました。

会長、コーディネーターが承認され、また、準備会で議論を重ねた「運営ルールブック」も会員からの承認を受けました。

会長：愛知県立大学 稲村哲也教授  
コーディネーター：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた 三矢勝司氏



## 県民と行政で組織する準備会の設置

第1回準備会

「公園マネジメント会議」の円滑な発足に向けて、県民と行政で組織する「準備会」を設置しました。



## 運営ルールブックに関する意見交換

第2回準備会～第8回準備会

準備会では、公園マネジメント会議の「目的・役割」、「会員の心得」、「運営体制」、「活動の評価」など運営の基盤となる考え方が示された「運営ルールブック」に関する議論が主に行われました。

また、準備会メンバーから資料説明が中心に感じられる準備会の進行に対して意見があり、相互の意見交換を中心とした進行へ変更されるなど、県民と行政が協働するための議論の方法が模索されました。



2007

2008

2009

第1回準備会

第2回準備会

第3回準備会

第4回準備会

第5回準備会

第6回準備会

第7回準備会

第8回準備会

平成21年  
第1回全体会

## 平日の利用促進に向けた議論

平成 21 年度第 2 回全体会

会員から提案された議題に基づき、「平日の利用者拡大について考えてみよう!」と題して意見交換を行いました。各会員の様々な立場や視点で、多様な活動案や方策案についての意見が出されました。提案された主な意見は、調査、イベント・プログラム、国際交流、PR 活動、人材育成及び利用や運営の改善などでした。

### < 今後の進め方についての主な提案 >

- ・現場スタッフの声を是非取り入れて下さい。
- ・出席者の意見だけでなく、団体の討論会なども必要。
- ・コア会議以外の全体会議があるとよいのでは?★
- ・報告項目は少なく、討議時間を多く取って欲しい。
- ・会員が企画できるようにすると良い
- ・マネジメント会議の果たす枠、目標を示すべき。
- ・さまざまな団体と交流が出来るような工夫がほしい。

#### memo

★ コア会議以外の全体会議については、総会の中で会員同士が話し合う機会を設けました。

## 分科会の設置

平成 21 年度第 2 回全体会

この時期は、モリコロパークが環境がテーマの万博を開催した跡地ということもあり、会員の関心も環境に向いていました。その中で、愛知工業大学 八木教授より、「池における水質・底質調査分科会」の設置について申請があり、賛成者多数により分科会の設置が承認されました。

質疑応答の議論の中から、会員による調査活動への参加・協力の他、調査そのものを新たなプログラムとして捉えたり、調査で得られたデータによる環境学習プログラムづくりなどの活動イメージが出されました。

## 会員の提案を活動に繋げる

平成 21 年度第 1 回コア会議

提案の中から、重点的に考えたり、アクションすることについて方向付けを行うべく、1 会員 3 項目を選んで投票しました。

自分がやりたいと思うこと、実行可能であること、公園マネジメント会議として必要であること、以上 3 つを総合的に判断して選択しました。

投票の結果は、最多得票数が「モリコロパークの健康診断」、2 位が「学校と連携した校外学習の場づくり」、3 位は「アンケート調査」になりました。

活動の提案	投票数
1 ★ アンケート 調査	6
2 ☆ モリコロパークの健康診断	10(9)
3 いつも人が集まるイベント や教室等開催	4
4 平日プログラムの常設	2
5 学校と連携した校外学習の場	7
6 農業体験	3
7 自然観察会の実施	3
8 健康づくり	1
9 スポーツ教室	1
10 食育	2
11 造園講座(日本庭園手入れ講座)	2
12 大人向け文化講座	2
13 自然とアート が融合した企画	3
14 いつでも参加可能なプログラムの常設	4
15 大人のサロン	1
16 留学生との交流会	0
17 外国人による料理・文化講座	1
18 ナショナルデー・ナショナル月間	3(4)
19 公園ガイドツアー	4
20 学校等教育機関への売り込み、出前講座	1
21 企業や組織等への売り込み、出前講座	1
22 公園マネジメント 会議専用ホームページ	4
23 公園情報誌発行	1
24 園内ボランティアの育成	4
25 夏季の開園時間延長	1
26 リニモとの連携	1
27 園内バスの有効活用	0
計	72(72)

※ ( ) 内の数字は会議中での投票数であり、後日集計の結果修正



#### memo

★ アンケート調査は、来園者を対象とした大規模な「秋の大アンケート大会」を、園内各施設にて実施しました。

#### memo

☆ モリコロパークの健康診断は、次項「H21 年度第 4 回コア会議」にて行いました。

2009

平成 21 年度  
第 2 回全体会

平成 21 年度  
第 1 回コア会議

平成 21 年度  
第 2 回コア会議

# 地球市民交流センターの運営計画について検討

平成 21 年度第 3 回コア会議

平成 22 年秋にオープンを控える「地球市民交流センター」の運営について意見交換を行いました。★

分野 対象者	環 境						交 流		その他
	自然環境 (体験型)	自然環境 (工作型)	生活環境 (リサイクル型)	健康・ スポーツ	農業体験	食育	国際交流	世代間交流	
小学校 低学年	(1)森の探検とクラフト (2)自然体験と工作	(9)ひろって工作 <低学年向け工作>		1 <企業との協力> 物は企業協働を期待	2 <リピーターづくり> つくる 収穫など 何回か来てもらおう (21)農業体験 (22)田植え		(26)世界の農業体験 (27)留学生(大学)との交流会 (28)留学生等による異文化交流教室 (29)世界の家族	3 <留学生の活用>	(33)日本の生活の中の結婚行事(舞)体験 4 <企業の技術力> テクニカル職がありそうだ！ NPO 協働で子ども向けにやってみよう。
小学校 高学年	(3)モリコロパークを巡るツアー		(14)ゴミ減量とバナナ繊維の紙づくり						(34)観覧車は、どうやって回る？ 技術
中学校	(4)グリーンアドベンチャー								
上記 すべて 対象	(5)プロジェクトワールド (6)いきものみっけ de スタンプラリー (7)モリコロパークの宝さがし (8)100 年後、1000 年後と環境	(10)お茶体験 (11)箱づくり (12)世界の竹楽器づくり (13)自然素材で工作をしよう！ 1 団体あたり 40~50 人	(15)牛乳パック紙飛行機競技体験 (16)夢のトンネル (17)自然にある素材で紙づくり (18)エコキャンドルづくり エコキャンドルナイト		(23)無農薬で作った野菜から美味しい健康づくり、料理体験 (24)野外炊飯(火)を通しての環境、文化、技術を学ぶ 火が使えろが 木 燃料 薪 大人数、大丈夫！ (25)いも煮会選定 6 <火を使った「食」>	(24)野外炊飯(火)を通しての環境、文化、技術を学ぶ JICA などと連携 (30)ヒシの実、ドングリを食べよう！ (31)世代、国際交流の農業体験とおじいちゃん、おばあちゃん、他国籍の皆で楽しめる農業と料理教室 (32)鉄カアグリと地球環境		プロが教える香エネ NPO と一緒に子ども向けを制 5 一緒にやろう 10月、11月に集中！！ パラソ <集中をばらす>	(35)みんなで取り組む香エネ活動 一気についてもっと知るうー (36)ミクロボン大会 環境 県立大も協力あります (37)環境新聞サミット (38)あそびのプログラム ※押さえない 〇畑プロジェクト それだけ 一遊び 食べる

### memo

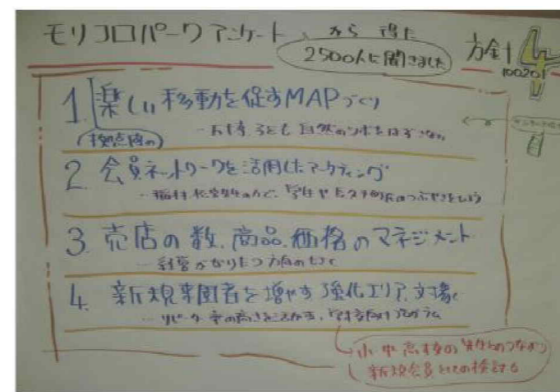
★ 地球市民交流センターの運営方法や、各部屋で貸出す備品などについて、公園マネジメント会議委員の意見が活かされました。

### 会員提案企画「モリコロパークの健康診断」

園内アンケート結果を踏まえ意見交換を行なった結果、モリコロパークの4つの体質改善の課題が明らかになりました。

1. 各施設がわかりやすく、楽しく移動を促すマップ作り
2. 公園マネジメント会議の会員ネットワークを利用した今後のニーズ調査
3. 公園内の飲食店・売店の経営について現状に適したサービスの内容や店舗数の見直し
4. 利用者の新規開拓の強化

平成 21 年度第 4 回コア会議



### memo

★ 公園マネジメント会議で大イベントを成功させたいという思いは、愛知県が主催し、分科会が企画・運営する「モリコロパーク春まつり・秋まつり」(以下、春秋まつり)や「地球市民交流センターオープニングイベント」に活かされることとなりました。

## 取り組み方針を検討

平成 22 年度第 1 回総会

前年度の公園マネジメント会議の評価結果で提案された、「問題点に関する改善提案」を実現するためのアイデアについて意見交換しました。出席された会員の方が「カフェ」のような雰囲気の中で、少しでも多くの方と楽しく対話できるよう、「ワールド・カフェ」というスタイルを試みました。各テーブルに広げたテーブルクロス(模造紙)に自由にキーワードやイラストを書き込みテーブルを移動しながら和気あいあいとセッションしました。そして、最後に各テーブルで出されたアイデアや意見を発表して全体で共有しました。

議論の結果、下記の6つのアイデアが出されました。

- ・ 会員サービスとしての情報提供
- ・ 定期イベント・プログラムの開催
- ・ 大イベントを公園マネジメント会議で主催
- ・ 提案型分科会の立ち上げ
- ・ 情報の一元化及びサポート
- ・ リニモ問題への対策



2009

2010

平成 21 年度  
第 3 回コア会議

平成 21 年度  
第 4 回コア会議

平成 22 年度  
第 1 回総会



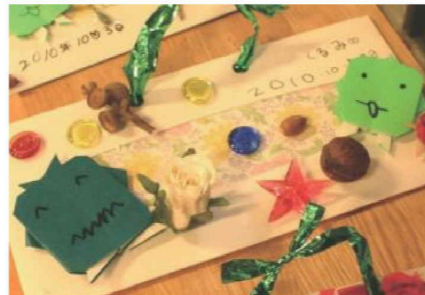
# 地球市民交流センターのオープン ～東日本大震災をきっかけとした活動

## 地球市民交流センターのオープン

平成22年10月1日

公園マネジメント会議「地球市民交流センターオープニング分科会」の活躍で、華やかに地球市民交流センターはオープンしました。約1ヶ月間、同時開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）と協力しながら、市民団体が入替わりでお客様をもてなしました。

オープニングセレモニーでは、公園マネジメント会議会員等により「地球市民交流宣言」が宣言されました。



## 地球市民交流宣言（抜粋）

- 知恵とちからを出し合って明るい未来社会を築くために、地域内外、そして世界に、広く、大きく、交流の輪を広げていきます。
- 地球環境問題の解決に貢献する新しい技術や伝統的な技と知恵を楽しく学び、伝えていきます。
- 市民の参画をはじめ、行政、企業、教育・研究機関などが知恵を出し合い、学び合うことで、持続可能な社会を創るため楽しい交流と学びの手法を提供します。



## 東日本大震災をきっかけとした活動

公園マネジメント会議分科会にて企画・運営された春秋まつりにおいて、「東北支援をしよう」という会員の気持ちが高まり、多様な取り組みが行われました。

特に、震災が起きた直後の春まつりは、開催するかどうかという迷いの中で、「東北を支援するためにも開催する」ことを決断しました。

その結果、平成23年3月19日(土)が約12,100人、20日(日)が約14,200人と多くの入園者でにぎわいました。会場内においては、支援募金を募り、2日間で総額134万5千円が集まりました。

その後、平成23年9月～平成25年3月に実施した春秋まつりでは、東北支援商品の販売を公園マネジメント会議会員の協力のもと行いました。



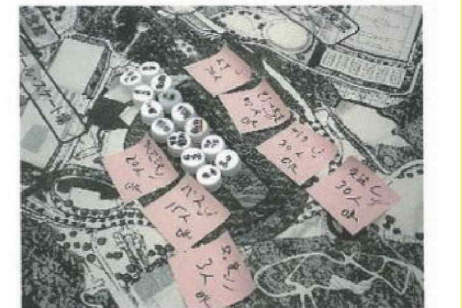
### 公園マネジメント会議「緊急時に備える実習分科会」 管理者を集めた会議「震災時公園管理計画に関する打合せ」

「公園マネジメント会議会員はお客様をもてなす立場なのに、園内で震災にあったときに、どうしたら良いのか分からない」という意見が会議で上がり、多くの会員から賛同を得ました。

その結果、公園マネジメント会議「緊急時に備える実習分科会」と、管理者を集めた会議「震災時公園管理計画に関する打合せ」の2つが生まれました。

会員を集めて、震災時のシミュレーションをしたり、管理者のためにペットボトルキャップをお客様に見立てた地図上訓練の手法「PBC法シミュレーション」を開発しました。その後、PBC法は管理事務所スタッフの震災訓練にも実用されました。

また、「震災時公園管理計画に関する打合せ」がきっかけとなり、園内の飲食業者と管理事務所は、震災時に居合わせたお客様のための無償提供を受けられる協定を結びました。



### 公園マネジメント会議「樹木でよみがえれ被災地の緑」分科会

公園内で、幼稚園・小学校の子ども達と、東北のどんぐりの実から苗木をつくり、被災地にプレゼントしよう、というアイデアが提案され、分科会として活動することとなりました。

活動当初は、震災直後ということもあり、東北でどんぐりを拾ってくれる人も、苗木をプレゼントする先も決まっていませんでしたが、別件で公園を訪れた大学教授から、宮城県岩沼市役所を紹介して頂き、岩沼市海岸沿いの津波被害軽減のための「千年希望の丘」と協力関係を結ぶことができました。



2010

2011

2012

平成22年  
10月1日

# 2 全国都市緑化あいちフェアへの参加

「愛・地球博」10周年に行う「第32回全国都市緑化あいちフェア」の開催にあたり、公園マネジメント会議としての参加に向けての議論を続け、会員全員参加による「あいちフェア市民村」に取り組みました。

## 全国都市緑化あいちフェアに向けて取り組む行動プランが決定

平成25年度臨時総会

公園マネジメント会議の問題点や魅力を洗い出し、今後の「行動プラン」が事務局より提案されました。大目標の文言や改善指針については継続して審議することとし、中期目標としての「全国都市緑化あいちフェア」に向けて取り組んでいくことが承認されました。

### 1) 【大目標】→ 継続審議

「市民と行政のパートナーシップにより、市民がより使いやすい公園をつくろう。」

### 2) 【2015（平成27）年までの中期目標】→ 承認

愛・地球博10周年に開催される「全国都市緑化あいちフェア」は会員の総力をあげて取り組もう！

### 3) 【改善指針】→ 継続審議

- 1 会員の多様性やネットワークを活かした活動を重視していこう！
- 2 会議の運営を、事務局主導から会員主導へ変えていこう！

## テーマ別に取り組む方針を議論

平成25年度臨時総会

「全国都市緑化あいちフェア」の以下の4つの基本方針をキーワードとし、2015年に向けて公園マネジメント会議で取り組むべきことを討議しました。

1. 既存ストックの魅力を活用するフェア  
～愛知万博からの10年を振り返り、未来につなぐ～
2. みどりのチカラを体感するフェア  
～緑のチカラを知り、そのチカラにワクワク・ドキドキする～
3. 協働をエンジンとするフェア ～県民が大活躍する舞台となる～
4. 愛知県ならではのフェア ～アイチにとことんこだわる～
5. その他

## 4つのコンセプト

平成25年度第1回コア会議

「全国都市緑化あいちフェア」において、公園マネジメント会議から社会に発信したい4つのコンセプトを設定しました。



- コンセプトA “「愛・地球博」の楽しさ再びー市民EXPO”
- コンセプトB “フェアが世代間をつなぎ活動継承のきっかけになる！”
- コンセプトC “フェアが都市緑化の「変化点」になる！”
- コンセプトD “点から線へー都市と自然をつなぐ緑化”

2013

平成25年度  
第1回総会

平成25年度  
臨時総会

2014

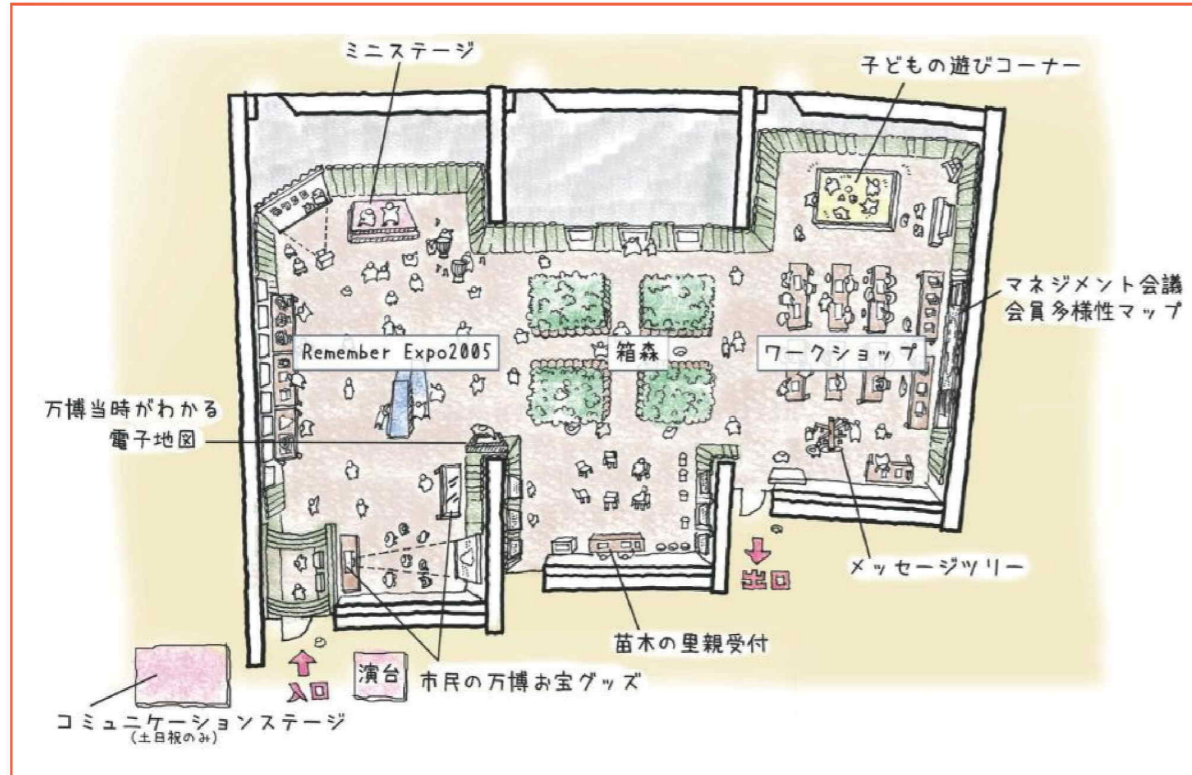
平成25年度  
第1回コア会議

平成25年度  
第2回総会

平成25年度  
第2回コア会議

平成25年度  
第3回コア会議

平成26年度  
第1回総会



## あいちフェア市民村

2015年9月12日～11月8日

「全国都市緑化あいちフェア」において、公園マネジメント会議全会員参加の取り組みとして「あいちフェア市民村」を運営しました。

### 【会員の感想】

- ・皆さんの得意分野で役割を担った結果、58日間を通して活動することができた。
- ・「あいちフェア市民村」からわかるように、私たちには大きなイベントを支えられるパワーがある。年に1回公園マネジメント会議主催の大きなイベントをやってみてはどうか。
- ・市民村に幼児コーナーを設けたように、公園を良くするにはちょっとした配慮が必要である。大きなことを考えるのも大事だが、そこにちょっとした配慮を忘れないようにしたい。
- ・公園マネジメント会議という組織は全国的にも珍しいのもっとPRできると良い。それには自分たちで構想、企画、行動をしていく必要がある。その中で個々の団体も自分たちの想いを表現できるのではないかな。

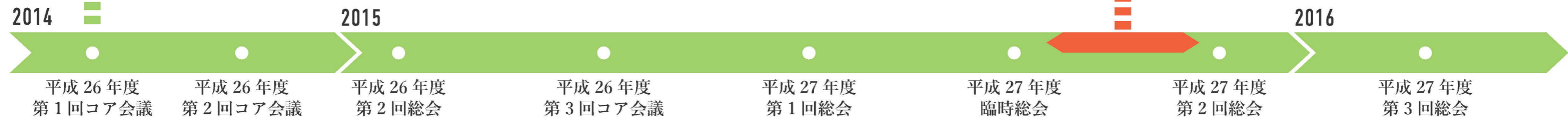


## ディレクターを中心とした全員参加の取り組み

平成26年度第1回コア会議

ディレクターに立候補した9名が事務局から紹介され、「全国都市緑化あいちフェア」への取り組みについて、これまでの流れや今後のスケジュール、ディレクター会議（第1回～第3回）での検討結果などの報告が事務局より行われました。

- 多目的スタジオ(当日会場)のゾーン分け
- ゾーンⅠ:市民目線で伝える「愛・地球博」
- ゾーンⅡ:市民目線で考える「生物多様性緑化」
- ゾーンⅢ:市民目線で進める「緑化の担い手づくり」
- ゾーンⅣ:市民主体で実践する「フェアの賑わいづくり」
- ゾーンⅤ:市民主体で進めるための「裏方支援のあり方」



2014		2015				2016	
平成26年度 第1回コア会議	平成26年度 第2回コア会議	平成26年度 第2回総会	平成26年度 第3回コア会議	平成27年度 第1回総会	平成27年度 臨時総会	平成27年度 第2回総会	平成27年度 第3回総会